

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.106】H24(2012).9.18
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

今金町立美利河小学校閉校記念式典
開校１１０年、山村留学２３年の歴史に感謝

平成２４年８月５日（日）、心配された雨もなんとかあがり、今金町立美利河小学校閉校式典が、遠くは九州、沖縄からの卒業生、同窓生、自治会、町関係者など総勢２６０名のご臨席をいただき、盛大に挙行されました。

美利河小学校は、明治３５年に美利河マンガン鉱山用工場の家屋１棟を修繕し、児童数１７名（男子１２名、女子１２名）で第６利別簡易教育所として授業が開始されました。昭和２２年には美利河小学校となり翌年新制中学校が併置され、昭和４７年に開校７０年記念式典が行われました。昭和５６年に中学校が閉校し、この年美利河、花石、中里、住吉の４小学校での集合学習「四つ葉学校」が始まりました。また、翌年の５７年には美利河ダム建設に伴い校舎を現在地へ移転新築し、校舎新築落成と開校８０周年記念式典・祝賀会が開催されました。美利河小学校の代名詞となった山村留学（里親）制度は、平成２年に多くの皆さんの尽力でスタートし、本年で２３年目を迎え、多くの子どもたちの成長を見守ってきました。



式典での木村校長先生の式辞と児童７名によるお別れの言葉は多くの皆さんが目頭を熱くされておりました。美利河小学校は、平成２５年３月３１日をもって閉校しますが、美利河の学舎で学んだことはいつまでも私たちの心の中に生き続けるに違いありません。式典終了後、お別れ会は、会場を今金町民センターに移し、２５０名を越える皆さんが出席し、四十数年ぶりの再開や山村留学の思い出など、ピリカ色に染まる思い出の時間がながれました。



また、お別れの進行は、美利河自治会の次代を担う丸山昇祐さんが務めたこともとても印象的なことで、出席された方誰もが新たな歴史が始まっていくことを予感したはずです。美利河小学校にかかわっていただいた全ての皆さんに心から感謝と敬意を表すると共に美利河自治会が新たな歴史を刻まれることを祈念いたします。





２０１２ドリームバスツアー
北翔大学・道立図書館プログラム開催

本年度のドリームバスツアーは、昨年の北星大学プログラムに続き、８／８（水）北翔大学・道立図書館でのプログラムが実施されました。

北翔大学では、学習コーチング学科の教授陣や学生の皆さんが子どもたち４６名を３班に分け、算数（変わった展開図を作ろう）・理科（真空実験にチャレンジ）・美術（たのしい絵画体験）の授業を実施していただきました。



それぞれが、興味深いプログラムで子どもたちは大学のキャンパスでの貴重な学習体験となりました。また、今回も昼食は学食体験をさせていただき、大学生気分を満喫しました。

道立図書館では、「図書館ツァー」で普段見ることのできない巨大な収蔵スペースや北方資料館では「昔のいまかね」の資料を見るなどのサプライズ企画やブックトークによる「本の起源」など、「読書と作文の町」すすめる上でも大切なお話をしていただきました。受け入れをいただいた北翔大学、道立図書館の皆様に心より感謝を申し上げます。



委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、川上教育委員です。

『読書と作文のまち』

道教委の目標である平成２６年度までに子供の学力を全国平均とする事をふまえて今金町では今年度「読書と作文のまち」をテーマとし学校、家庭、地域において共通の意識をもった取り組みがスタートしました。

”今金っ子育成プロジェクト「読書と作文のまちいまかね」ワーキングチーム”が中心となり今後の活動が充実することを期待しています。

「読書と作文・・・」と聞くと単に読書感想文を連想し、かえって子供を本嫌いにするというイメージをもたれる方もいますが作文には色々な方法があり、楽しみながら豊かな発想力や集中力を養い学力育成に効果的な手段といえます。



教育大鹿内教授による「看図作文研修」

絵をみて情報を読み取り書き出す指導法の看図作文は、発見する喜びを感じやる気が起こり自信がつきます。感じて想像して理解し表現する一連の流れが学力向上につながります。

先日、私が活動している読み聞かせボランティアで『子どもゆめ基金』の助成を受けプロの絵本パフォーマー岸田典大氏をお招きしました。岸田氏はソングライターでもあり絵本に自作の曲をつけ臨場感たっぷりの読み聞かせライブを行いました。初めてみる斬新で迫力あるステージに会場の大人も子供も夢中になりました。

今回で４度目の読み聞かせ事業でしたが回を重ねる度、おじいちゃん、おばあちゃん、父母に子供という家族ぐるみの参加者が増え特に父親層から「絵本って奥が深いんですね～おもしろかったです」「楽しかったです。うちでもこんな読み聞かせをやってみたいです」等うれしいコメントをいただいたのが印象的でした。

このように構えることなく自然に読書環境が日常にできると「読書と作文・・・」を難しく考えず家族のコミュニケーションの一つとして実践につながると思います。

今後、学校教育、家庭や地域それぞれの役割で活動が広がり明るい未来へ続くよう願っています。

参考までに、今金町ではこれまでも著名な絵本作家の皆様をお招きし、集いや絵本ライブを開催していますので紹介します。



〔第３３回北海道子どもの本のつどい今金大会
兼第７回今金図書まつり記念講演、
講師：とよたかずひこ氏　H22．８／７〕



〔長谷川義史氏絵本ライブH22. 5/28〕



〔飯野和好氏「読み語りの旅」 H24. 5/20〕



〔岸田典大氏絵本パフォーマンスH24. 8/26〕